

シーン3

「ウェーイw 戦闘員のみんなー見てるー？ w w w」

「今日の撮影は、戦闘員ちゃん達からのよーぼーでえ、昔の学生服でふれいだよ」

「え、中身が変わったまま？ もう、しょうがないなー、今回だけは昔のおしとやかーな、お嬢様ぶりっこでいってあげる♡」

「それじゃーこほん、ふふっ、この制服も久しぶりですね」

「あら、どうしました、先輩、すごくびっくりした顔なさって？ ええ、演技ですよ？ まさか、昔の私にもどつたと期待しました？」

「ごめんなさい。その……制服は着てますけれど、中身はマラピーチのままですよ」

「ふふふ、昔のおぼこな私では恥ずかしくて立つても居られませんでしたから、昔の自分を犯してみるみたいでドキドキしちゃいます」

「先輩をアナル責めする映像ですけど、組織の戦闘員のみなさんの間でも少しずつ人氣が出てきてるんです。それでみなさんの要望を聞いたところ、洗脳前の学生服でプレイしてほしいって」

「だから、今日はこの格好で先輩と、その、しちゃいますね……あ、先輩も学生服のコス、すごく似合ってますよ」

「戦隊リーダーの『蒼刃』さんにスカートがこんなに似合うなんて、くすす、思いもしませんでした」

「前から女の子したら可愛いのに、って思っていましたけど、まさか、ここまでとは驚きです」

「あ、それと、作戦部の方にアドバイス頂いて、先輩の心を折るのに昔の格好がいいいらしくて、でも、これは、あんまり関係ない話でしたね、くすす」

「その姿見て、何か思い出しませんか？」

「ちよっとお古なんですけど、先輩が着てる制服は、私が昔、ちゃんと着てたものなんですよ。それに、先輩の女装は戦闘員さんたちの要望でもあるんです」

「女装でお尻を犯される姿が一番人気だなんて、いかにも悪の組織らしいですよね」

「作戦部の方々の指示も、とても面白いですし。どうしました、黙りこんで、もじもじして」

「あら、先輩のおちんちん、とても大きく膨らんで……そんなに嬉しいんですか？ ふふ、スカートを突き上げる勃起、素敵です」

「もう、このままずっと女装でいたら、オチンポ勃起した、今の興奮を楽しめて、最高だと思えますよ」

「先輩がメスになったら、私、ますます貴方を愛せると思うんです」

「そういえば、結局、告白できなかったんですけど、昔の私はリーダーのこと、大好きだったんですよ」

「もう恋い焦がれて……そうしたら、先輩のあの子と先輩、仲良くなってしまった」

「あの子と先輩の仲、応援してるつもりでしたが、先輩のこと、あきらめきれてなかったんですよ。だから嫉妬が凄くて……ふふ、昔の思い出ですけど……」

「今は大丈夫。組織の方に洗脳されて、その恋心も嫉妬も、全部、先輩を犯し抜きたいって、淫らな思いに変えていただきましたの」

「だから、ほら、見て下さい」

「私のおちんちん、とっても勃起してますよね？先輩のこと犯していると、キスよりも、告白されるよりも、はあはあ、もっと、もっと興奮しちゃうんです」

「ずっと、エクスタシーを感じつつけて、頭が真っ白になっちゃいそうなほど、楽しまわくってるんですよ」

「ほら逃げないで先輩。そんなにオチンポ勃起させてるんですから。貴方も興奮してくれてるんですよ。女装にはあはあしちゃう変態さんな先輩も、私、大好きですから」

「このまま、犯してしまってもいいですか。ほら、私のふたなりオチンポも、先輩に負けないぐらいビッキビキの、ガッチガチにそり返って、先っぽが痛いぐらいですよ」

「ふふ、後退っても、無駄ですよ。後ろはもう壁ですから、私のデカマラを露出させて頂いて、先輩のオチンポに擦りつけてしまいますね」

「スカートを捲あげて、先輩のオチンポも素敵ですよ。ビッキビキにそり返って、おへそに当たりそうで、ああ、もう我慢できません。このまま、オチンポ擦りつけて、先輩と兜合わせしちゃいますね」

「ん、んん♡先っぽ同士が軽く当たるだけで、あひい♡いやらしい声、出てしまますの。くふ、もうたまりません♡先輩のおちんちんも、私のも、だらだらとおツユを溢れさせてえ……♡」

「あ、あ♡もっと、ほらあ♡もっとオチンポ同士を絡めて、コスコスしてえ♡はあ、はあ！……あ、んあ♡!!……フウ、フツ……ん♡んん♡」

「んふ、先輩も気持ちいいんですのね♡そり返った竿同士が、あひ、あひい、いっぱい当たって、擦れてえ♡」

「でも、先輩のオチンポ、それで勃起は最大ですよ。私のは、まだ、ああッ、大きくなりますのよ。

ふたなり怪人になってしまってますから、どんな男性よりも勃起の大きさには自信がありますの、あ、あ……海面体が充実してえ、勃起、止まりませんの……あ、あふ……♡」

「このまま、ほら、フェラしてください。先輩。そこにひざまずいて、ふふ、そうですよ。だいぶ素直ですよね。先輩も私のオチンポ見て、興奮してるんですね」

「もう、入れてほしがってること、今の命令を素直に聞いたことで、しっかりわかつちゃいました」

「いいんですよ、先輩は女装して、ちよっと乙女な気分になってるだけですよ。女の子なら、オチンポをしゃぶるのも、全然、普通のことですし。くふふ」

「さ、ひざまずいたら、恋人みたいにふたなりチンポにキスして♡ あ、あふ、そうですよ。唇をすぼめて、ちゅばって、吸って。き、気持ちいいです。先輩にチンポキスされて、先走り止まりません……んふ♡」

「そのまま口に咥えて、舌の上で転がすように、しゃぶってください」

「んふ、うまいですよ、先輩。フェラなんて、もちろん初めてですよ、なのに、上手です♡あ、ああ♡ とてもたまりません」

「先輩が私の制服を着て、私のおちんぼしゃぶってくれてるなんて……ん♡ とってもいいです。もっと、もっと、わたしのおちんぼにご奉仕して下さい」

「ハアッ、ハアッ♡……ふぁッ♡……んぁっ、はう♡……ふっ、つふぁ、んんっ♡……はあ、はう♡……ふー、ふーっ♡♡♡」

「ふふ、チンポにキスフェラする先輩、とってもメスの顔してます♡ んッ、んふ……先輩のフェラでオチンポ、そそり立ってえ……はあはあ、そろそろ、私も先輩の中で楽しみたくなってきました」

「んふ、それにしっかりフェラできた先輩には、ご褒美をあげないとダメでしょうし」

「あ、あふ、先輩、聞いてますか？ フェラに夢中にならないでください。そう、顔をあげて、私の指示を聞いてくださいね」

「先輩には私のおちんちんをプレゼント致します。もちろん、お尻のメス穴ですよ、ふふ。もじもじして、お尻の穴、むずついてるんですね」

「フェラしているときから、ずっと期待してたのは、知ってますよ。それじゃあ、立ち上がって、恋人みたいにおねだりしてみてください」

「そう、片足をあげて、私のメス穴に入れてください、なんてのはどうかしら？ 先輩は女の子ですもの。お上品に、おねだりしてみてください」

「さ、先輩、おねだりですよ——」

「くすす、良くできましたね先輩」

「ちやーんと、おねだりするなんて、素直になりましたね。自分では抵抗しているおつもりでも、ふたなりチンポをおねだりしてしまうぐらい、洗脳が進んでしまっているんですよ。ふふふ」

「じゃあ、立ったままの先輩のアナル、んんんッ！」

「頂いて、しまいましたぁ♡ くすす、すんなりと、私のぶっといチンポ、奥まで受けいれましたね」

「もう、先輩の身体は女装してなくても、メスになってしまってる、そういうことですよね♡ しかもただのメスじゃなくて、アナルでオチンポをやすやすと受け入れるビッチになってるんですよ♡」

「ほら、ん、ん♡ オチンポで直腸をかき回されて、悦んでしまつて、アへ声が止まつてませんし♡ でも、私、メスな先輩、イヤじゃありませんし」

「ほら、このまま随ちちゃつて♡ もっとビッチになつて♡ 悪の組織のメス穴人間に堕ちちゃつて♡ 尻穴アクメ、しまくつてください♡」

「私はそんな、先輩が、あひ、あひい♡ 大好きですから♡ 先輩は悪の怪人マラピーチにメス随ちさせられるんじゃないんですよ」

「私に、ずっと仲の良かった『雪華』に少し気持ち良くさせられるだけなんです♡」
「それだったら、いいですよね」

「ほら、学生時代に戻つて、やり直しましょう」

「私も先輩に、ん、ん、こうして勇気を出して告白しますから。好き、好き、先輩のこゝと、本当に大好きです。愛してます♡ ああッ、先輩なしでは私、いられないんですよ」

「先輩だつて、いっぱいオチンポでアナルをぐちゅ混ぜにされて、前立腺をこりこり擦られて、気持ちいいですよね、アクメしそうですねですよね？」

「だったら、私の気持ちを、ふたなりチンポファックの気持ち良さを受け入れてください♡ ほら、先輩を好きな私のふたなりデカマラで、ち、違いました、私の恥ずかしがりの、お、おちんちんで、伊つてください、メスになって、素敵なクライマックスを迎えてください」

「先輩のオチンポ、ヒクヒク震えて、アナルを犯されて、出してしまいそうですね」

「もうチンポメスまで、あと少しみたいですわね。先輩のおちんちんから、カウパーだらだら滴り落ちて、濃厚な先輩ミルクがチンポの内から迫りあがつてきてるんですね♡」

「私も、先輩のお尻で、良くなつてしまいます♡」

「ハアッ、ハアッ♡!! ふあッ♡♡!!……ん！ ふう♡！ ふうッ♡!!……ツうあ！……ハア、ハア♡ ハアッ♡!!……くうッ！ ん♡ んふう♡!!……んあ♡ ふあッ♡」

「先輩のメスまんこでもう、もうッ……んふおッ、い、イク、伊つてしまいます♡ おちんちんから、ミルクう、オチンポミルク、いくっばい、先輩に出しちゃいますッ」

「ほらあ、召し上がつて♡ 私のふたなりミルク、たっぷり召し上がつて♡」

「一緒に、伊つてください♡ あ、あああ、あっはああああ——ッ♡♡♡」

「あ、ああ……すごい、私の射精と一緒に、先輩のオチンポから、びゅっるびゅるって、精液が出てらして……メスアクメしながら、オチンポでところてん射精しちゃったんですね」

「いっぱい私の身体にもザーメン掛けていただいて、うれしいです♡ おちんぽシコシコもしてないのに、女の子の格好でトロテン射精なんて、先輩も立派なメス、それもふたなり女子に堕ちてしまいましたね」

「もう、ヒーローなんてやめて、私ともっと仲良くなりましょう♡ いつでも女装で犯してさしあげますから。くすすっ♡」